

学校における地域文化財の活用事例

——高崎市南八幡地区における地域学習——

齊 田 智 彦

(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

- | | |
|-------------------------|------------|
| 1. はじめに | 4. 学習活動の様子 |
| 2. 小学校社会科の学習内容と文化財の活用状況 | 5. まとめと課題 |
| 3. 南八幡地区の概観 | |

—— 要 旨 ——

平成20年に学習指導要領が改訂され、小学校では平成23年4月から、中高校では平成24年4月から全面実施されている。今回の教育内容の改善のポイントの一つとして、伝統や文化に関する教育を充実することがあげられている。具体的には、身近な地域の遺跡や文化財を観察したり調査したりする活動を取り入れるという内容である。

高崎市南八幡地区には、上野三碑の山ノ上碑や金井沢碑をはじめ、山名古墳群、根小屋城など多くの遺跡や文化財に恵まれている。本稿は、この地区の小学校における地域文化財を活用した体験学習の実践例を報告するものである。

キーワード

対象時代 現代
対象地域 群馬県高崎市
研究対象 小学校社会科

1. はじめに

毎年数多くの埋蔵文化財発掘調査が行われ、その成果として発掘調査報告書が刊行されている。当事業団においてもすでに600冊を超える報告書を刊行し、膨大な出土資料を抱えている。これらの貴重な発掘の成果をどのように活用し、人々に還元していくかは多くの調査組織が抱える共通の問題である。

調査成果を活用する有効手段の1つとして、学校教育への利用が考えられる。文化財保護法第四条では、「文化財が貴重な国民的財産であることを自覚し、これを公共のために大切に保存するとともに、できるだけこれを公開する等文化的活用に努めなければならない。」としている。発掘調査の成果はその地域に住む児童や生徒にとって、地域の歴史を知るための貴重な資料であることは間違いない。しかし、現状では、出土文化財とその情報を学習に十分活用しているとは言い切れない。社会科授業等で地域教材としての資料や情報を充実させることができ求められている。

本稿は、筆者が平成24年から3年間、高崎市立南八幡小学校で地域の遺跡や文化財を活用した学習の実践例を報告するものである。

2. 小学校社会科の学習内容と文化財の活用状況

小学校では平成20年に学習指導要領が改訂され、平成23年度から全面実施されている。身近な地域の遺跡や文化財に関わる事項を「小学校学習指導要領解説 社会編」から抜粋すると以下のとおりである。

第3章・第3節・2内容(1)

「遺跡や文化財、資料などを活用して調べ」とは、ここでの学習の仕方を示している。小学校の歴史学習では、通史的に展開し知識を網羅的に覚えさせるのではなく、国土に残る遺跡や文化財を調べたり(略)地域の博物館や郷土資料館などの学芸員から話を聞く…

第4章・1 指導計画作成上の配慮事項(2)

博物館や郷土資料館等の施設の活用を図るとともに、身近な地域及び国土の遺跡や文化財などの観察や調査を取り入れるようにすること。(略)第6学年での我が国の歴史学習などでは、身近な地域や国土に残されている様々な遺跡や文化財、歴史博物館などを直接訪ねて観察したり調査したりする活動を組み入れることができる。

このように発掘調査の成果を学校教育に生かす可能性を読み取ることができる。

児童にとって身近な地域としてとらえることができる

のは、どれくらいの範囲であろうか。それは、かなり限定期的で、日常的な行動範囲である学校区のことである。地図や写真を見なくても、あの場所だと容易に想像できる地域のことを意味する。高崎市全体や群馬県まで広げることは、身近であるとは考えにくい。

筆者がかつて勤務していた小中学校においては、地域の文化財の一覧リストはあったが、それについての詳細な説明は不十分であった。また、近隣の発掘調査の実施状況については調べる手段もなく、実態は不明であった。それゆえ、地域の遺跡や文化財を活用した授業を展開することは困難であると言わざるを得ない。どこに何時代の遺跡があり、どのような遺物が出土しているかの情報を手に入れることは難しい状況であったといえる。

では学校からの文化財に対する要望はどのようなものであろうか。

鳥取県埋蔵文化財センターは、平成11年度に授業と出土文化財のかかわりについてのアンケート調査を実施した。以下はそのアンケート結果の抜粋である。

○6年生社会の平安時代までの単元の展開の難しさにはどのようなことがありますか。

- ・実際に資料を見たり、触ったりしないと実感がわからない。
- ・教科書の情報と地域の歴史情報との関連がつかみにくい。
- ・地域の情報を教材化していくことが難しい。学習に役立つ地域の文化遺産(の情報)が少ない。

○6年生社会の平安時代までの単元の展開のなかで鳥取県若しくは、貴校が所在している地域の実物資料・情報(遺跡名等)を利用ないし引用されたことはありますか。

- ・ある…43%、ない…57%

○「ある」と回答した方へ、地域情報を利用若しくは引用された結果の児童の反応はいかがでしたか。

- ・自分の地域を誇りに思う子がふえた。
- ・学習内容を身近なものとしてとらえ興味深く学習した。
- ・自分たちの身近なところに遺跡があることに驚いていた。
- ・実物を通して身近に当時の生活をとらえることができた。

○「ない」と回答した方は以下のなかからその理由を教えてください。

- ・特に必要と思わないから
- ・利用しようとしてもどこに何があるかわからぬい。
- ・自分自身にとって、扱う資料のもつ意味がよく

わからないから。

○上記の授業の展開の中で、地域(鳥取県・学校の所在する市町村等)の資料や情報が使えればよいと思われたことはありますか。

・ある…97%、ない3%

学校向けの講座において講義を行った際に地域教材を活用したことがあるかという問い合わせに対しても、ほとんどの回答が「ない」であった。また、かつての同僚に学校で地域文化財の教材化について質問したところ、やはり実績はほとんどなかった。

(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団においては、学校への貸出資料として土器や石器のセットを用意したり、啓発資料として「遺跡に学ぶ」を発行したりすることにより、貴重な文化財を有効活用できるように努めている。過去9年間の学校への資料の貸し出しの件数の推移は第1図のとおりであり、ほぼ横這いである。

3. 南八幡地区の概観

学習活動を実践した南八幡地区の地形と主な遺跡、文化財は以下のとおりである。児童が位置や状況をイメージしやすい代表的なものを取り上げている。

○南八幡地区の地形

南八幡地区は高崎の南東に位置し、山名町・根小屋町・木部町・阿久津町からなる。平野部の標高は80mを測る。烏川と鎌川の合流点の西側に広がる沖積平野は幅が1km弱である。烏川右岸にあたる山名町・木部町・阿久津町には、昔の河川の様子が地形に残され、かつては自然堤防だったところに宅地や畑などが広がり、旧河川の流路や後背湿地だったところは水田に利用されてれている。

地区の西部には岩野谷丘陵(観音山丘陵)が広がる。この丘陵からは柳沢川、薬師沢などの通称根小屋七沢などの河川が烏川に流れ込んでいる。これらの河川は、丘陵からの出口付近に小規模で急な傾斜の扇状地を形成している。また、大雨の時にはたびたび土砂を堆積させたために、周囲の土地からはかなり高いところに川が流れる天井川の状態になっている。

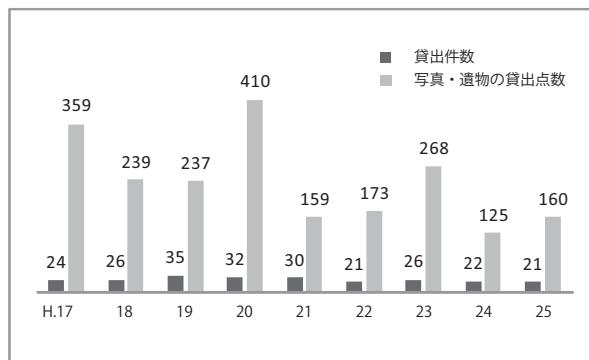
○南八幡地区の遺跡と文化財(第2図)

縄文時代

八幡山遺跡(10)：やまな台団地の造成に伴って調査され、諸磯b式期の土器片とともに土偶が出土している。

山名柳沢遺跡(7)：グリーンヒル高崎住宅団地開発に伴って調査された。おもな遺構は住居7軒で、花積下層式期1、黒浜式期1、諸磯b式期2、諸磯c式期2、諸磯bまたはc式期1である。

山名戸矢遺跡(12)：山名イーストタウン住宅団地造成に伴って調査され、堀之内式期の住居1軒が確認されて



第1図 考古資料の貸出数の推移



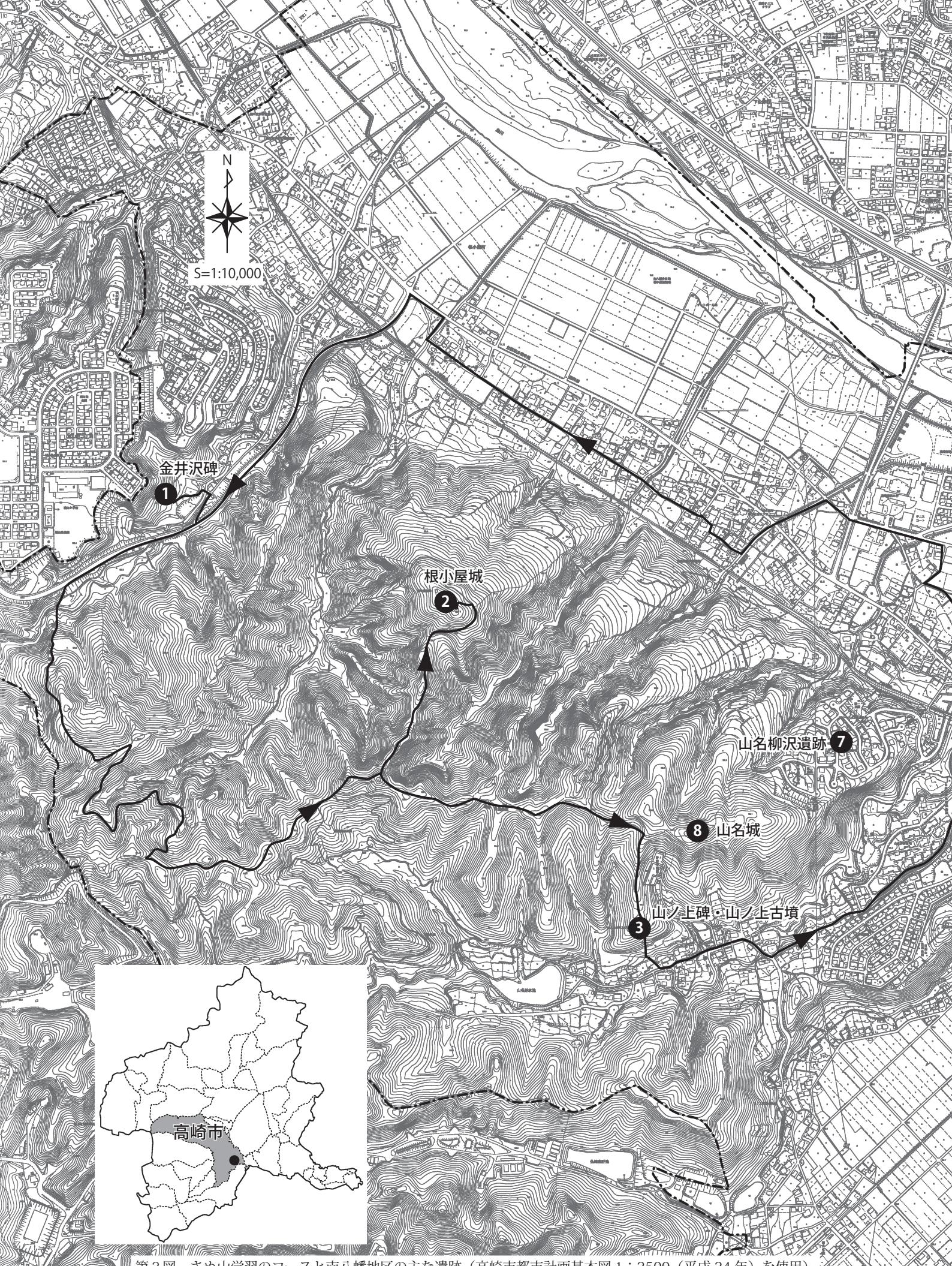
写真1 南正門近くに移築された山名土合I号墳



写真2 八幡中学校の一角にある山名土合II号墳



写真3 木部氏館と推定される心洞寺



第2図 さぬ山学習のコースと南八幡地区の主な遺跡（高崎市都市計画基本図 1:2500（平成 24 年）を使用）



いる。

田端遺跡(13)：上越新幹線の建設に伴って調査され、後期中葉の敷石住居2軒が確認された。

山名田中地遺跡(11)：阿玉台式期・勝坂式期の土器片、晩期の独鉛石が出土している。

弥生時代

山名田中地遺跡：弥生時代中期前半から中葉の土器片が出土している。高崎市の南西部で弥生時代の遺物が確認された初めての例であり、この地域への弥生文化の流入を考える上で貴重な遺跡である。

古墳時代

山名土合古墳群(9)：南八幡中学校校庭拡張・プール建設工事の伴う調査で、5基の古墳が確認された。このうちⅠ号墳(写真1)は正門南側に移築保存され、Ⅱ号墳(写真2)は現状保存されている。遺物は、人物・形象埴輪、須恵器甕・壺、刀子・鉄鎌などの鉄製品が出土している。

山名原口I遺跡(5)・山名原口II遺跡(6)：群馬職業能力開発短期大学(ポリテクカレッジ群馬)建設に伴って調査され、4基の古墳が確認された。このうち原口I遺跡1号古墳は現状保存され、2号古墳は石室を開けたままの状態で覆屋が設けられ、鏑川流域で見られる模様積の石室を見学することができる。出土した人物埴輪の中で、白い石を鼻の穴や歯として使用した埴輪は、全国的にも類例の少ない貴重な発見である。

山名古墳群(4)：平成13から18年度にかけて発掘調査が実施され、前方後円墳の山名伊勢塚古墳をはじめとして、帆立貝形古墳1基、円墳14基、不明1基の計17基の古墳が確認された。山名伊勢塚古墳は、墳丘全長が65mあり、6世紀後半に造られたと考えられている。前述の山名原口遺跡の古墳も山名古墳群に含まれる。(写真4)

山ノ上碑および山ノ上古墳(3)：現存する石碑のうち、日本で2番目に古く681年に立てられた。輝石安山岩の自然石に53文字が刻まれている。放光寺(前橋市)の山王

廃寺と推定)の僧の長利が、亡き母の黒壳刀自を供養するために立てたものである。碑には母と自分の系譜についても記されている。その隣には直径約15mの円墳の山ノ上古墳があり、黒壳刀自の父の墓として造られ、その後黒壳刀自を追葬したと考えられている。

山名柳沢遺跡：古墳2基が調査された。いずれも残りは悪く、周堀から須恵器の蓋、広口壺、甕などが出土している。

田端遺跡：上越新幹線の建設に伴う調査で、古墳時代の住居72軒と水田が確認された。遺物は須恵器のほか、大量の滑石製臼玉や勾玉の未成品が出土している。

山名戸矢遺跡：古墳時代の住居6軒が確認されている。田端遺跡と合わせて、これらの集落は山名古墳群と密接な関連があると考えられている。

奈良・平安時代

金井沢碑(1)：上野三碑の一つ。726年に立てられ、輝石安山岩の自然石に112文字が刻まれている。三家子□(□は判別不明)を家長とする6人の血族と同族の3人の男性からなる知識グループが参加し、仏法による結縁を記したものである。碑文には「上野国」「群馬郡」などの文字の確認でき、「群馬」の文字の最初の使用例とされている。

田端遺跡：奈良時代の竪穴住居16軒、平安時代の竪穴住居160軒が調査された。平安時代の住居は竪穴構築材として瓦が多用されていたことがわかっている。

山名戸矢遺跡：奈良・平安時代の住居68軒が確認された。平安時代の住居からは、「辛枚万呂(からのひろまろ)」と刻書された男瓦が出土している。なお、「辛」は「多胡郡辛科郷」、「枚万呂」は人名と考えられている。また、鉄滓や羽口などの鍛冶遺構に関連した遺物も出土している。

山名原口I遺跡・山名柳沢遺跡：それぞれ、奈良・平安時代の竪穴住居50軒、平安時代の竪穴住居41軒が確認



写真4 山名伊勢塚古墳の墳丘から山名古墳群を望む

されている。

中世

根小屋城(2)：1570年、武田信玄によって築かれたとされている。遺構はほぼ完全な状態で残っている。

山名城(8)：南北朝の頃、南朝の拠点として築かれ、その後木部氏によって改修されたと考えられている。現在残っているのは戦国時代の遺構である。

木部氏館(14)：戦国時代、木部氏によって築かれる。現在、館の跡地には心洞寺があり、木部城主の木部駿河守範虎の墓といわれる五輪塔がある。田端遺跡の調査により、堀の一部が確認された。

木部城(15)：心洞寺の西南に位置し、16世紀に築かれたと考えられている。遺構は完全に消滅している。(写真3)

木部北城(16)：戦国時代、木部氏によって築かれたと考えられている。現在は玄頂寺となっている。

4. 実際の活動

南八幡小学校では、「さぬ山学習」として、5学年を除く全児童が校外学習を行っている。各学年ごとにテーマを設定し、6学年は地域に残る文化財めぐりを実施している。平成24年度よりゲストティーチャーとして参加し、今年度で3年目となる。児童に説明するときの注意点を以下に記す。

専門的な用語は使用せず、小学生にも理解できるような言葉づかいを心がける。対象が小学生であることを踏まえると、専門的な用語を多用した説明は、かえって混乱を生じかねない。よって、発掘で使われている用語を別の言い方に置き換えて説明する。

教科書で学習したことと対比させながら、地域にも同じような歴史の営みがあったことを説明する。鳥取埋文のアンケートからもわかるように、歴史の教科書で学んだことは日本のどこか遠いところで起こった出来事であり、身近な事象としてとらえることは困難であることがうかがえる。よって、「聖武天皇が天皇の位についたころ、金井沢碑はつくられました。」など、教科書とリンクさせながら解説をする。

具体的な発掘場所をとりあげ、身近な場所に昔の人々が生活していたことを実感させる。例えば、「中学校の校門を入ってすぐ左には古墳があります。」「イーストタウンには古墳時代や平安時代の人々が住んでいました。」というように、児童たちが知っている場所を取り上げて、身近な場所の遺跡の存在に気づくことができるよう説明する。

以下、児童に対する具体的な説明を記す。なお、○数字は第2図の地図中の番号と対応し、学習活動を実施した拠点である。



写真5 金井沢碑



写真6 根小屋城での学習の様子



写真7 山ノ上碑



写真8 山ノ上古墳の石室を見学

①金井沢碑(写真5)

金井沢碑は、今からおよそ1300年前、ちょうど聖武天皇が天皇の位についた頃につくられました。この碑がもともとどこにあったかはよく分かっていません。近くで掘り起こされたとか、雨で崩れたところで見つかったとか、近くを流れる金井沢に埋もれていたとも言われています。さて、金井沢碑には皆さんも知っている文字が出てきます。まず、「上野国」がという文字です。これは「こうずけこく」と読みます。上野国は昔の群馬県のこと指します。次に出てくるのは「群馬郡」は、「ぐんまぐん」ではなく「くるまのかおり」と読みます。「下賛郷」は「しもさぬごう」と読み、「さぬ」が「佐野」になったのではないかと考えられています。

金井沢碑と山ノ上碑、多胡碑をあわせて上野三碑と言います。南八幡地区には、群馬県内で重要な3つの石碑のうちの2つがあるので、昔からとても重要な場所であったことがわかります。

上野三碑を、人類が後世に伝える価値のある世界各国の記録物を保護するための「世界記憶遺産」に登録しようという動きもあります。私たちの身近な場所から登録されたらすばらしいと思いませんか。

②根小屋城(写真6)

根小屋はもともと寝る小屋を意味したといわれています。武士が寝る小屋があった場所、つまり城であったことを表しています。根小屋城は、今から約500年前に戦国大名の武田信玄が造らせたと伝えられています。さて、城と聞くと皆さんはどのような城を想像しますか。テレビや写真などで大阪城や姫路城などを見たことがある人もたくさんいると思います。この時代の城は実はこのような城(資料1)であったと考えられています。想像していた城とずいぶん違っていませんか。さぬ山には根小屋城のほかに、山名城や寺尾茶臼山城などいくつかの城があったことがわかっています。また、山の中だけではなく、木部町や阿久津町には戦国時代にこの地域を治めていた木部氏の住まいと考えられている木部氏館が今の心洞寺のところにありました。

③山ノ上碑と山ノ上古墳(写真7・8)

山ノ上碑は681年に立てられ、表面には51文字が書かれています。この石碑は日本で何番目に古いと思いますか。今まで残っている石碑の中で日本で二番目に古いものなんです。そして、放光寺のお坊さんである長利という人が、お母さんの黒壳刀自のためにこの石碑を立てたということが記されています。また、文字をよく見ると「佐野三家」と文字も見ることができます。三家とは大和政権が直接治める地域のことと、黒壳刀自は佐野三家の健守命の子孫であることが書かれています。

すぐ隣には、山ノ上古墳があります。この古墳は、黒壳刀自のお父さんの墓として造られ、あとから黒壳刀自



写真9 山名原口2号墳の模様積

を埋葬したと考えられています。それでは、石室の中も見学してみましょう。

④南八幡の歴史と山名古墳群

南八幡地区の歴史を振り返ってみましょう。教科書に登場する一番古い時代を覚えていますか。それは、縄文時代でしたね。南八幡にも実は縄文時代の人々が住んでいました。それでは、クイズです。南八幡の縄文人は一体どこに住んでいたでしょうか。正解は、グリーンヒルやイーストタウンのある場所に住んでいました。グリーンヒルを発掘調査したところ、今から約6000年前の縄文時代の竪穴住居の跡が見つかっています。また、イーストタウンの発掘調査では、約3000年前の竪穴住居跡が見つかりました。縄文時代の住居跡からはたくさんの縄文土器や石器が出土しています。

弥生時代の遺跡は、残念ながら南八幡地区にはありません。コンビニエンスストア近くの東側の畑から、弥生土器の破片が見つかっているだけです。

さて、古墳時代になると多くの人々が南八幡地区に住んでいたようです。今、みなさんが座っている場所は、古墳時代にこの地域を治めたリーダーのお墓である山名伊勢塚古墳です。では、この古墳はどのような形をしているでしょうか。「A前方後円墳、B円墳、C方墳」。(多くの児童が円墳に手を挙げる。)正解は、こちら(資料2を見せる)、Aの前方後円墳です。ショベルカーやブルドーザーもない時代に、こんなに大きな古墳を造ることができたのは、南八幡を治めたリーダーが強い力を持っていたことを物語っています。周りにはたくさんの円墳もあります。多くの古墳がまとまって残されている場所は群馬県内でも数少ないです。群馬県内には1万基以上の古墳があったのですが、多くが壊されてしまいました。こうして今でもたくさんの古墳が南八幡地区に残されているわけは、きっとみなさんのご先祖様が古墳を大切に扱ってきたからではないでしょうか。

さて、この伊勢塚古墳のことをもう少し詳しく話します。ここに来る前に山ノ上古墳の石室を見学しましたが、山名伊勢塚古墳はどこにリーダーを埋葬したと思います

か。実は、ちょうどみなさんの真下に眠っているのです。発掘調査によると石室の入口は南側にあり、このような状態でした(資料3)。また、古墳の上には様々な形の埴輪が飾られていたこともわかっています。中には人の形をした埴輪もありました(資料4)。山名伊勢塚古墳の周りにはたくさんの古墳がありますが、この中で山名原口2号古墳(写真9)から見つかった、「歯のある埴輪」はとても貴重な発見です。この古墳は鏑川流域でしか見られない模様積といわれるとてもきれいな石の積み方をしています。

それでは、この古墳を造った人とたちはどこに住んでいたのでしょうか。今から30年ほど前、上越新幹線を造るときに発掘調査が行われました。その結果、田端遺跡から古墳時代の竪穴住居の跡がたくさん見つかりました。この写真を見てください(資料5)。みなさんも見たことがある建物が写っていると思います。田端遺跡は阿久津の下水処理センターの東側にあり、心洞寺のすぐ北側にありました。竪穴住居の跡からはたくさんの土器や作りかけの勾玉などが見つかりました。そのほかには、イーストタウンにも古墳時代の人たちは住んでいたようで、発掘調査の結果、竪穴住居の跡が多数確認されています。

最後に奈良時代、平安時代についてです。この時期になると南八幡地区には多くの人々が住んでいました。山名伊勢塚古墳のすぐ西側のポリテクセンターやイーストタウン、グリーンヒル、田端遺跡の発掘調査で竪穴住居の跡と土器や鉄製品などがたくさん見つかっています。

今日一日を通して、南八幡地区の歴史を学習してきました。みんなの身の回りにはたくさんの遺跡や文化財が残されています。時間の都合で見ることができなかつた場所へも是非訪ねてみてください。きっと新しい発見があることでしょう。

5.まとめと課題

説明を聞いた後の児童の感想のうちいくつかをあげる以下のとおりである。

- ・ぼくの家の近くにある古墳の中にまだ人がいることを知った。
- ・縄文人がグリーンヒルやイーストタウンで暮らしていたことにとても驚いた。
- ・昔たくさん的人がこの地域に住んでいたことがわかった。
- ・(根小屋城は)テレビに出てくる城のような形をしていないことがわかった。
- ・身近に前方後円墳があるとは知らなかった。
- ・山名古墳群には前方後円墳があるということを初めて知って見ることもできたのでうれしかった。
- ・模様積みという石の組み合わせがきれいな古墳は、

かぶら川の近くでしか見られないことがわかった。

- ・自分の住んでいるところに縄文人が住んでいたことに驚いた。
- ・私たちの周りにはたくさんの歴史があることがわかった。
- ・木部城や山名城にもいってみたいと思いました。
- ・この地区にはこんなにたくさんの歴史があるんだなと思った。
- ・山名古墳群はあれほど大きいのだなど、今でも印象に残っている。
- ・山の途中に堀があって、敵からお城を守るということがわかった。
- ・こんな身近なところに昔からのものがたくさんあるなんてすごいと思った。

以上のような感想から、児童にとって身近であると思われる地域の遺跡や文化財を取り上げることは、地域の歴史を理解することに一定の効果があったと考える。写真や図を見るより、実際に現地を訪れてみることは極めて重要である。

以前に教員向けの授業実践講座を受け持った時に、受講者の勤務校の近くで出土した土器を手に取って見てもらった。そのなかに「ちいさな土器であるが、自分が勤めている学校の庭から見つかったと聞いて、とても愛着がわいた」という感想があった。児童にとっても自分たちが住むすぐ近くの場所から見つかったものとなれば、同様に親近感を持つはずである。今後は、遺跡から出土した本物の土器や石器などの遺物を実際に手に取る機会を設けたい。そうすることで、古代の人々の生活の痕跡を肌で感じ取ることができるのでないだろうか。

群馬県内の小学校数は325校、中学校数は175校に上る。これらのすべての学校に地域独自の学習教材を開発することは困難である。しかし、身近な地域に文化財が豊富に存在することは紛れもない事実であり、これらを学校教育にどのように学習に取り入れていくかが課題と言える。今後の発掘調査の成果を基にした学校教育における地域文化財の活用例の蓄積を期待したい。

謝辞

本稿の執筆にあたり南八幡小学校の齋藤謙二校長先生、篠原照美先生、高津知明先生には大変お世話になりました。心より感謝いたします。

学習活動で使用した発掘調査報告書の図版（A2 サイズに拡大して使用）



資料1 神保植松遺跡の中世城館



資料2 上空から見た山名伊勢塚古墳



資料3 山名伊勢塚古墳の羨門



資料4 山名伊勢塚古墳出土の人物埴輪



資料5 田端遺跡の発掘調査の様子

引用・参考文献

- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988 『田端遺跡』
- 高崎市教育委員会 1990 『山名原口II遺跡』
- 高崎市教育委員会 1991 『山名原口II遺跡』
- 高崎市遺跡調査会・高崎市教育委員会 1993 『山名戸矢遺跡』
- 高崎市教育委員会 1995 「山名土合遺跡」『平成6年度高崎市内小規模埋蔵文化財緊急発掘調査概要』

高崎市教育委員会 1995 『高崎市内遺跡埋蔵文化財緊急発掘調査報告書9』

高崎市教育委員会 1997 『市内遺跡採集資料整理報告』『高崎市内遺跡出土資料整理報告書1』

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1997 『神保植松遺跡』

高崎市市史編さん委員会 2000 『新編 高崎市史』

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2000 『寺尾中城遺跡』

鳥取県埋蔵文化財センター 2001 『出土文化財活用の手引き』

田丸明史 2004 「中学校地理教育を考える」

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2006 『年報25』

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2007 『年報26』

文部科学省 2008 『小学校学習指導要領』

文部科学省 2008 『小学校学習指導要領解説 社会編』

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2008 『年報27』

専修大学文学部考古学研究室 2008 『山名伊勢塚古墳群』

高崎市教育委員会 2008 『山名古墳群』

松田 猛 2009 『上野三碑』 同成社

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2009 『年報28』

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2010 『年報29』

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2011 『年報30』

國師洋之 2012 「埋蔵文化財を活用した授業の展開」『縄文の森から』第5号

(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2012 『年報31』

(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2013 『年報32』

(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2014 『年報33』